

「地図」

可児市 第16組西念寺 梅溪得文

京都へ行きますと、観光シーズンに拘らず最近の観光客の多さに驚かされます。何人かのグループで、一人が地図を手に、時々道で立ち止まっています。皆で地図をのぞき込み、顔をあげて周りを見渡し、再び地図に目を落として指をさしたり、地図をあっちこっち回したりしています。

地図は上が北になっていますから、現在地と地図の方角を合わせているんですね。地図を持って歩いているという事は目的地があるわけです。例えば、今日は金閣寺に行こう。地図には金閣寺が載っているのですが、当然ここから金閣寺は見えません。地図をあっちこっち回してみているのは、今自分がどこにいるかを確認するのです。自分の居場所がはっきりすれば、どちらの方向に行けばいいのかがわかります。地図と言うのは、目的地を探すものであると同時に、自分の居場所を探すものなのです。

さて、現代は皆学歴も知識もあり、情報も溢れる時代です。昔の人はそうではなかったのですが、教えを大切に聞き、苦しい中にあっても先人の足跡を訪ね、いずれ浄土に参らせていただきますと方向が定まっていたと思います。しかし現代人はいわゆる豊かな生活の中で、自身を見失い迷子になっているのにも関わらず、そのことにきづいてもいないのではないのでしょうか。迷子と言うのは目的地が分からない人のことでなく、自分の居場所が分からないのを迷子と言うのです。居場所が明らかになれば自ずと方向が定まるのです。地図と言う教えに居場所・在りようを聴いていくこと、そのことの大切さを思います。

私が今立ってる場所は何処なのでしょう。